



# 血液免疫病学ニュースレター

Vol. 33 | 2021年4月

【発行元】 東北大学 血液免疫病学分野 (東北大学病院 血液内科・リウマチ膠原病内科)

Address: 〒 980-8574 仙台市青葉区星陵町 1-1 Tel: 022-717-7165 / Fax: 022-717-7497

Homepage: <http://www.rh.med.tohoku.ac.jp/>

## 巻頭言

4月になり、今年も桜が満開となりました。街路樹も緑の若葉をまとい始めています。

新しい仲間を迎え、医局も心なしか華やかな雰囲気になっています。残念ながら、COVID-19の影響で歓迎会ができず、ミーティングもウェブとなっているため、例年とは異なるスタートとなりましたが、基本的に医療の現場はテレワークではありませんので、皆さんすぐに医局に溶け込んでくれました。すでに頼れるスタッフです。本号にそれぞれ自己紹介記事を載せていますので、是非顔と名前をご記憶いただき、今後、外勤や研究会などでお目にかかる時があれば、お声がけください。

もう一つ、本号では大事なアナウンスがあります。このたび、東北大学血液内科で血液学の入門書を作成いたしました。血液学のテキストは重いものが多く、その楽しさを知る前に敬遠してしまう医学生・研修医が多いことから、エッセンスのみを集約したわかりやすいテキストが必要であることを以前から感じていました。その思いが今回形になったわけですが、作成に当たってはスタッフ全員が分担し、それぞれが考えている重要ポイントを文章にいたしました。編集は市川先生・横山先生が行い、デザインは宮城県立がんセンターの鎌田先生にお願いしています。まさに、東北大学の純正品です。本号に同封いたしますので、是非御目通しください。なお、発刊には一迫記念 READ 血液アカデミーの全面バックアップを頂戴しました。改めて、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年初めに出現した COVID-19 は、一年たってもまだ消えることなくむしろ広がりを見せています。宮城県でも感染者が急増し、東北大学病院も感染病棟を設置し、当科も含めた内科系診療科がコロナ診療に携わらざるを得なくなりました。このような中、血液内科・リウマチ膠原病内科は、いずれも手を緩めることなく専門診療を続けており、東北大学病院の診療科の中で数少ない通常稼働を維持している科となっています。造血幹細胞移植も例年を超えるペースで実施しています。通常診療以外の負担が増している中、大学病院が果たすべき専門診療に尽力しているスタッフを心から誇りに思います。

現在、COVID-19 感染症の診療がすべての疾患に優先されるようになっていますが、救わなければならない疾患の治療が必要であることに変わりはありません。この原稿を書いているとき、水泳の池江璃花子選手の五輪代表選出のニュースが飛び込んできました。ご承知の通り、池江選手は急性リンパ性白血病を発症し、化学療法に加え造血幹細胞移植を受けています。この短期間で代表の切符を得るためには大変な努力を池江選手自身が重ねてきたと思います。このような舞台を提供できたのは血液内科医の専門診療です。この疾患の診療に携わるものとして大変うれしく、誇りに思いますし、自身の専門診療の価値・重要性を再認識された先生も多いのではないかと思います。

ただし、我々が専門診療に集中するためには COVID-19 感染症の終息が必須です。そのためには COVID-19 肺炎の治療薬を開発しなければなりません。現在、私が研究責任者となり呼吸器内科・感染症内科の先生方と、COVID-19 肺炎の重症化阻止を目的とした多施設医師主導治験を実施しています。治験薬は東北大学の宮田教授が開発した経口 PAI-1(plasminogen activator inhibitor-1) 阻害剤で、COVID-19 肺炎の重症化の原因である血栓形成を抑える作用を有する薬剤です。昨年度の早期第 II 相で、COVID-19 肺炎患者における安全性が確認できたため、今年度中にプラセボ対照のランダム化試験を実施し、早期の承認を目指しています。この薬剤で重症化を防ぐことができれば COVID-19 は単なる風邪ウイルスになるかもしれませんし、もしそうならば、皆さんが日常生活を取り戻すことができるのではと期待しているところです。

さて、いよいよ仙台での日本血液学会が近づいてきました。今年度は日本内科学会副理事長も務めることになり学外の仕事が増えそうですが、仙台での初の日本血液学会開催は特別です。現地開催になるか web 開催になるか、COVID-19 感染症の状況を見極めてということになります。期待にお応えできる会になるよう準備を進めて参ります。先生方のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(張替 秀郎)

## 【目次】

巻頭言	…	1
新入局員挨拶	…	2
受賞報告	…	3
学会報告	…	3-4
人事異動	…	5



## 新入局員・新メンバー挨拶

### 諸田 直哉 先生

〔血液内科〕

4月より血液内科でお世話になっております諸田直哉と申します。

群馬県の太田市出身で、県立前橋高校を卒業しました。大学は東北大学で卒業後も仙台に残り、初期研修は仙台市立病院で2年間研修させていただきました。大学在籍時から興味を持っていた血液内科にこれから携わることに、喜びとともに緊張も感じております。これからもしっかりと勉強して、一人前の血液内科医を目指して精進してまいります。これからもご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



### 木葉 大地 先生

〔血液内科〕

はじめまして。今年度血液・疫病学分野に入局した木葉大地と申します。血液内科医を志して日々勉強させていただいております。

今年で医師3年目となりますが、最初の2年間は塩釜市の坂総合病院で初期研修をしてきましたが、血液内科で働くのは初めての経験になります。ほとんど血液疾患を経験する機会はありませんでしたが、初期研修の2年間で一番心に残った患者さんは悪性リンパ腫の方でした。その方がちょうど3月に入院された際に、血液内科に進むことを話したらとても喜んでいただき、うれしさを感じると同時にとても身の引き締まる思いでした。

病院も変わり、わからないことだらけで色々ご迷惑をおかけすることになると思いますが、できる限り頑張っていくと思っておりますので何卒よろしくお願ひいたします。



### 成田 衛 先生

〔リウマチ膠原病内科〕

本年度よりリウマチ膠原病内科に入局致しました、成田衛と申します。私は東北大学医学部を卒業後、大崎市民病院での2年間初期研修を経て、後期研修医として御世話になっております。全身を診ることができる医師になりたいと思ひ、様々な所見を呈する膠原病に魅力を感じて研修に臨んでおります。

大崎市民病院でも2ヶ月強リウマチ科で研修をさせていただきましたが、大学病院ではさらに複雑な背景や病態に向き合うことが多く、自らの未熟さと膠原病の奥深さを実感しております。一方で先生方には暖かい御指導を頂き、学びの多い日々を過ごしております。

一日でも早くお役に立てるよう精進して参りますので、今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願ひ致します。



### 阿部 裕美 さん 〔技術補佐員〕

4月より技術補佐員として入局させていただきました阿部裕美と申します。3年ほど前まで免疫学分野で技術補佐員として勤めておりましたが、思っていたよりも3年のブランクは長かったようで、徐々に思い出しながら新たな気持ちで仕事に取り組んでいきたいと思ひます。皆様にご迷惑をおかけする事もあると思ひますがご指導のほどよろしくお願ひいたします。

### 高木 崇子 さん 〔事務補佐員〕

4月より治験関係を担当させていただくことになりました、秘書の高木崇子と申します。治験に関する書類に関わるのは初めてで、ご迷惑をおかけすることもあるかと思ひますが、宜しくお願ひ致します。趣味はアウトドアで、キャンプが大好きです。キャンプがご趣味の方がいらっしゃいましたら是非お話をください。これから医局の皆様や秘書の皆様と楽しくお仕事させていただければと思ひます。どうぞ宜しくお願ひ致します。



## 受賞報告

### 秋田 佳奈恵 先生〔七星賞〕

この度、令和3年度東北大学大学院医学系研究科女子大学院学生奨励賞（七星賞）を受賞致しました。研究課題名は「B細胞の活性化におけるインターフェロンαによるpretreatment作用と活性化B細胞に対するForkhead box M1阻害薬の効果の研究」です。このような賞を賜り、大変光栄に思っております。また、張替先生、藤井先生をはじめ、多大なるサポートをして頂いた血液・免疫病学分野の皆様には深く感謝を申し上げます。

本研究では、SLE患者の静止期B細胞のIFN signatureが形質芽細胞のFOXM1発現の増加を導き、ひいてはSLEでみられる異常なB細胞活性化に関連する可能性が示唆されました。FOXM1は細胞分裂や細胞死を調節する転写因子であり、腫瘍領域では治療標的としての報告はされているものの、膠原病領域での報告は少数であり、特にSLEについては未報告です。現在もなお、SLEの治療は副腎皮質ステロ

イドや免疫抑制薬による非特異的治療が多くを占めており、B細胞の分化や生存におけるFOXM1の機能的役割を解明できれば、SLEの新たな分子標的治療の開発につながる可能性があると考えました。SLEの発症機序はまだ不明な点が多いですが、病態の解明や特異的な治療につながる一助になれば幸いです。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



## 学会報告

### 医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2021 東京

日本内科学会総会と同時開催の「医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ」が、今年オンラインにて4月10日に行われました。これまでは、秋の「血液免疫病学セミナー」などにおいて、演題発表を希望する学生とコンタクトを取れるのですが、昨年はコロナ禍でそのような機会もない中、SGTで当科を回った宮崎優大君と野口侑太君の二人が発表を希望してくれました。発表の準備に当たっては、コロナ禍のためメールやオンラインでのやりとりが中心となり、十分な話し合いができなかった部分もあり、さらに3月中旬からは宮城県の緊急事態宣言の発令に伴って、学生が病院に来て直接カルテを見る機会を得られ難くなってしまい、厳しい状況での学会参加となりましたが、二人ともよく勉強し準備をしてくれたと思います。宮崎君は「同種造血幹細胞移植後

長期寛解を維持している治療抵抗性未分化大細胞リンパ腫の一例」について、野口君は「重篤な出血症状を伴って発表した後天性第V因子欠乏の一例」について、発表を行いました。本番は、オンラインならではのやりにくさや多少のトラブルにも慌てることなく、二人とも堂々とした発表でした。発表が良かったからこそ、座長の先生から積極的な質問を頂きましたが、背伸びせずしっかりディスカッションに応じて良かったと思います。そして、野口君の演題は優秀演題賞を受賞することができました。来年以降も、志ある積極的な学生の演題発表を期待したいと思います。そして、早くコロナ禍が終焉し、通常の学会開催での発表となることを願ってやみません。

(市川 聡)

医学生・研修医の日本内科学会 (完全オンラインにて開催です)

ことはじめ 2021 東京

第118回 日本内科学会講演会 東京国際フォーラム

2021年4月10日(土) 会長 赤司 浩一 九州大学



## 学会報告（続き）

### 第43回日本造血細胞移植学会総会

新型コロナウイルスの影響でWEBを利用したハイブリットで開催され、3,000名以上の方が参加登録され、視聴は延約7万人とのことでした。認定医取得のための教育セミナー受講や認定医更新のための単位取得がWEBで可能となるのは助かる！という声が聞こえてきました。Zoomによる社員総会、各委員会、ワーキンググループ会議にも少しずつ慣れてきたように感じます。私はオンラインLiveで再生不良性貧血に対する移植とpre-recordで感染性合併症（教育セミナー）を担当しましたが、会場からの反応がないという物足りなさにも少しずつ慣れてきました。若手からのポスター発表として、東北大学病院 初期研修医（現2年目）久保龍大先生の「非血縁者間骨髄移植前に Mogamulizumab 単剤治療を行った化学療法抵抗性 ATLL の一例」、同じく研修医の阿部未玲先生の「同種造血幹細胞移植後に神経リンパ腫症として再発した濾胞性リンパ腫の2例」、後期研修医の古川瑛次郎先生の「レテルモビル予防終了後のCMV再活性化の検討」がありました。スタッフの横山先生は口演で「同種臍帯血移植においてKIRリガンド不適合がGVHD予防法の効果に与える影響」、看護部東14階病棟の瑞慶寛真樹さんは「造血細胞移植患者に対する退院支援アセスメントシートの運用実態の評価」を発表されました。横山先生はJSHCT Working Group Research Awardを受賞されました。おめでとうございます。以下、研修医の先生からの感想を引用させていただきます。

○久保先生「大西先生の指導の下初めての学会でポスター発表をしました。オンラインでの開催の為あまり実感がありませんでしたが、開催中じっくりと他の演題を見て自分の発表との比較をする事が出来ました。学会発表という良い機会を与えていただきありがとうございました。」

○阿部先生「今回、3月に造血幹細胞移植学会で神経リンパ腫症の症例を発表させていただき、様々な点について勉強になりました。まず、症例発表自体は初めての機会でしたので、抄録の書き方や経過表の作り方など、一から指導していただき、どのような情報が重要か、どのように提示するとわかりやすいかを学ぶことができました。また、偶然にも、自分が直接診療に携わった症例も含んだ発表であったことで、自分の診療やカルテ記載を振り返るいい機会になりました。どのような記載だと後日見てわかりやすいかを考えると、指導医の先生方の記載が実に理に適っていることが身に染みて理解できました。さらに、濾胞性リンパ腫について、基本的なところではありますが、分類や治療、疾患の経過について、特に神経リンパ腫症について知識を深められたことも良かった点の一つです。血液内科で研修したのは昨年のおよそ2ヶ月でしたが、症例発表をしたことで長いスパンでのリンパ腫の経過を考え、学びきっかけになりました。この学びを今後の研修でも活かしていきたいです。」

今後のますますの活躍に期待したいと思います。

（大西 康）



Annual Meeting of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation

## 日本造血細胞移植学会総会



English	Japanese
HOME	>
ご挨拶	>
開催概要	>
プログラム	>
演題募集	>
採択演題一覧	>
特別演題登録	>
事前参加登録	>
3月4日（木）以降の参加登録	>
参加者へのご案内	>
発表スライド作成要項	>
発表スライド登録	>
発表スライド登録のご案内 （特別演題・教育セミナー他）	>
リンク	>
協賛申込	>

2021.3.5<sup>FRI</sup> - 3.7<sup>SUN</sup>

東京国際フォーラム（ハイブリット開催）

オンデマンド配信期間：3月12日（金）～31日（水）

会長 田中 淳司 東京女子医科大学 血液内科学講座 教授・講座主任



## 人事異動

2021年4月の当科及び関連病院の人事異動についてお知らせ致します。

### 【診療科役職】 昨年と変わりありません

	診療科長	医局長	病棟医長	外来医長
血液内科	張替 秀郎	横山 寿行	市川 聡	小野寺 晃一
リウマチ膠原病内科	藤井 博司		白井 剛志	佐藤 紘子

### 【転入・採用】

田中 悠也 先生 石巻赤十字病院 血液内科 → 血液内科 医員（大学院生）  
諸田 直哉 先生 仙台市立病院 初期研修医 → 血液内科 医員（専攻医1年目）  
木葉 大地 先生 坂総合病院 初期研修医 → 血液内科 医員（専攻医1年目）  
成田 衛 先生 大崎市民病院 初期研修医 → リウマチ膠原病内科 医員（専攻医1年目）  
小澤 哲 さん 大学院生（修士）  
高木 崇子 さん 事務補佐員  
阿部 裕美 さん 技術補佐員

### 【転出】

櫻井 一貴 先生 血液内科 医員 → 仙台医療センター 血液内科  
橋本 和貴 先生 血液内科 医員 → 石巻赤十字病院 血液内科  
高橋 美岐 先生 リウマチ膠原病内科 医員 → 東北労災病院 リウマチ科  
高橋 幹弘 先生 リウマチ膠原病内科 医員 → 大崎市民病院 リウマチ科

### 【内部】

町山 智章 先生 メディカルメガバンク クリニカルフェロー → リウマチ膠原病内科 医員  
古川 瑛次郎 先生 血液内科 医員 → 血液免疫病学分野 大学院生  
岡崎 創司 先生 リウマチ膠原病内科 医員 → 血液免疫病学分野 大学院生

### 【外部・関連病院】

鈴木 琢磨 先生 公立置賜総合病院 → 山形大学病院 第三内科  
和泉 透 先生 血液免疫病学分野 臨床教授〔新任〕（仙台医療センター 血液内科 科長）

